

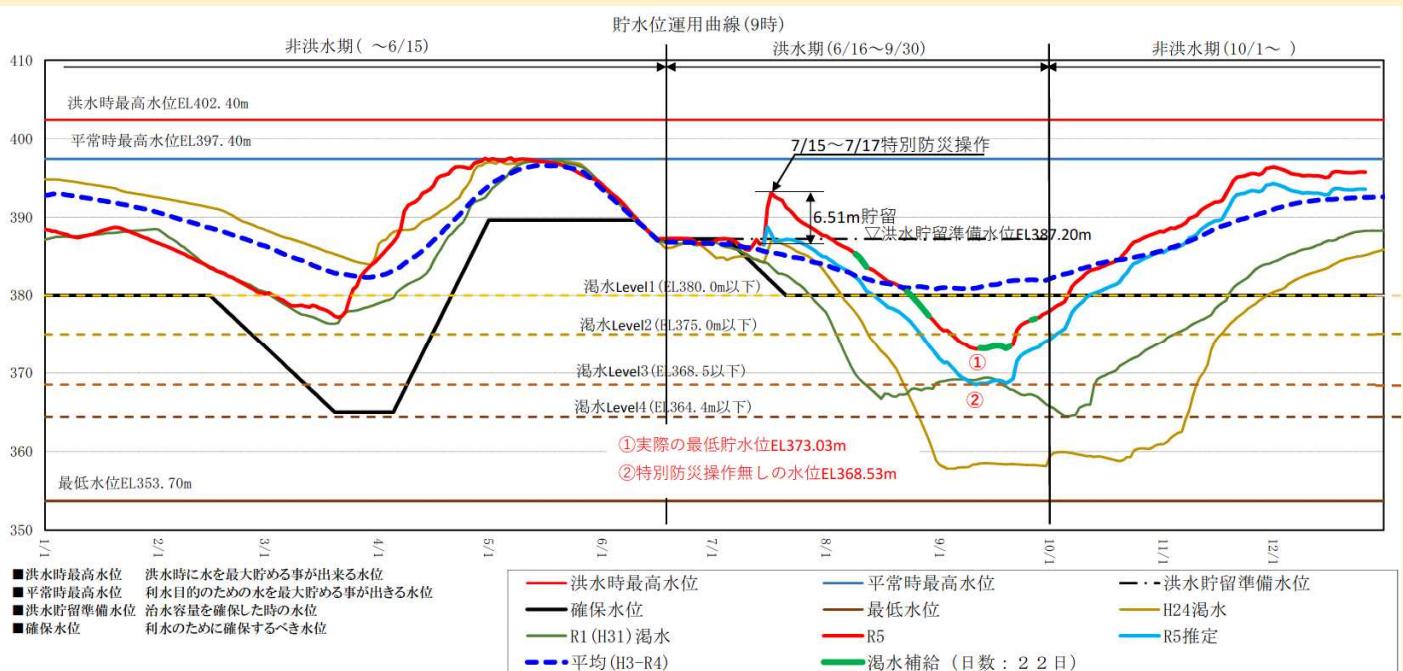
令和5年の 玉川ダム利水運用について

玉川ダム流域では、令和5年7月15日に秋田市を中心に被害をもたらした大雨による洪水の後は、7月23日に梅雨明けが発表され、少雨傾向が続きました。

玉川ダムでは、雄物川椿川（秋田市）観測所の流量を確認しながら延べ22日間、下流へ利水補給をおこないました。

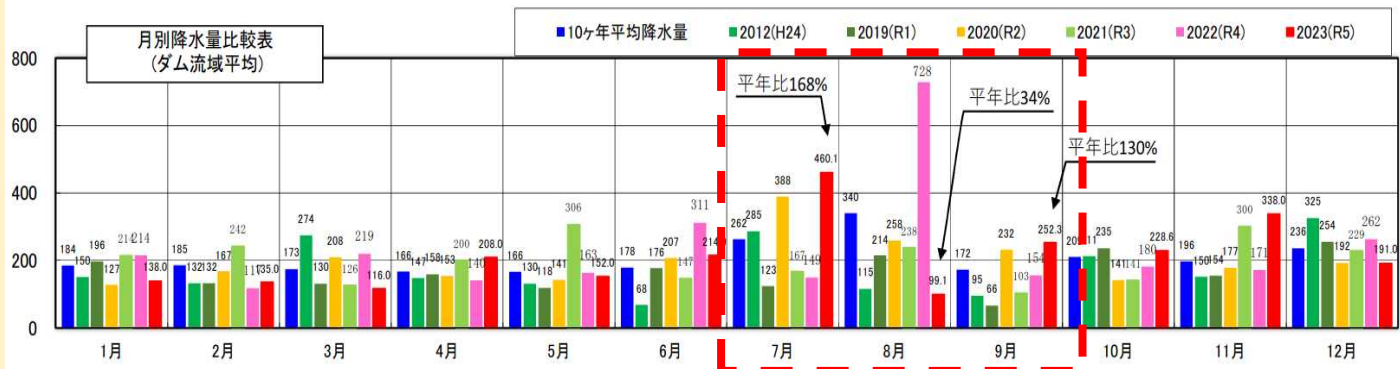
7月15日の洪水で、玉川ダムでは「特別防災操作※」を実施しましたが、下流への補給は特別防災操作の貯留水を有効活用することにより、かんがい等の取水制限も無く対応することができました。

※特別防災操作：下流河川の水位上昇軽減を図るため、今後の降雨予測を確認しながら、ダムに貯め込む水の量を増やし、ダムから流れる水の量を減少させる操作。



7月15日～17日の特別防災操作により、通常の洪水操作（200m³/s放流）をした場合と比較して、約34百万m³多く貯留しました。

貯水位は8月24日に渴水Level1 (EL380.0m)に、9月4日に渴水Level2 (EL375.0m)まで割込ましたが、9月10日にEL373.03mまで到達後、徐々に水位（赤実線）が回復しました。特別防災操作による貯め込みを行わなかった場合では渴水Level3 (EL368.5m・青実線) 近くまで水位が低下していたと推定されます。



7月は平年と比較して168%と、7月15日の降雨が影響して多くなっています。8月は平年と比較して34%と小雨傾向でした。その後9月に入り、雨量が多くなり貯水量も回復しました。

7月14～17日の洪水操作により流水を貯留



洪水前7/14 9時
EL386.51m



最高水位時7/17 10時
EL393.10m

渇水の為、下流河川へダムから貯留水を補給



渇水時9/15 EL373.39m

洪水・渇水対応とダムの機能を有効に活用しました。